

令和4年3月18日
四国電力株式会社

伊方発電所3号機 1次冷却材中のよう素濃度の上昇について

通常運転中の伊方発電所3号機（定格電気出力89万キロワット）の1次冷却材系統（管理区域内）において、本日、17時43分、1次冷却材中のよう素131濃度が通常約0.1ベクレル/cm³の3倍程度に上昇していることを確認しました。

よう素131濃度は、保安規定に定める運転上の制限値を十分下回っており、運転継続に安全上の問題はありません。

今後、監視を強化し万全を期すこととします。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

（参考）

○よう素131

燃料の核分裂で発生する放射性物質

○1次冷却材中のよう素131濃度

・通常値：約0.1ベクレル/cm³

・今回の測定値：約0.3ベクレル/cm³

（保安規定に定める運転上の制限値：32,000ベクレル/cm³以下）

以上